

1. 授業の基本情報

本授業は大学院特別支援教育コース科目であり、吉松靖文教授、富田の2名で担当した。登録学生数は3名で、全員現職大学院生であった。

2. 授業評価・授業研究の内容

(1) 問題と目的

本授業では、受講生の興味・関心に合わせて資料を用意し、授業前にMoodleにて配付し予習を促した上で、授業内では協議を行うこととした。しかし、実践的な内容と理論的な内容のバランスといった授業構成について、また課題の設定方法について、迷うことが多かった。そこで、教育企画室の「授業コンサルテーション」を活用し、授業に関する受講生のコメントを集めた上で、コンサルタントと共同で授業改善を図ることとした。

(2) 方法

12月上旬にコンサルタントと授業者が面談し、授業者の考える問題点について共有した。12月下旬の対面授業時にコンサルタントが教室に入り、授業者不在の状態、受講生から当該授業に対するコメントを聞き出した。1月上旬にコンサルタントと授業者が事後面談を行い、共同して授業の改善策を検討した。その後授業者が受講生に対し、コメントへの対応と改善策を伝えた。後期終了後の2月上旬に、授業者が授業自己分析シートをまとめた。

(3) 結果と考察

① 受講生からのコメントについて

受講生から寄せられたコメントについて、コンサルタントが全体コンセンサスを図った。その結果を表1に示した。

② 事後面談及びフィードバックについて

受講生のコメントを踏まえて、コンサルタントと授業者が事後面談を行った。その結果を表2に示した。

表1 全体コンセンサスの結果

主な回答	回答者数
興味・関心のある内容について、選択肢を示して聞いてほしい(範囲が広すぎて答えづらい)。	3名
動画等を視聴したい。	3名
理論的な内容は必要であると思っている。割合としては、理論：実践が1：2か3：7程度が良い。	3名
授業で紹介される書籍が読みやすい。	3名
理論的な内容の説明が、具体例が交えてあり分かりやすい。	3名
論文講読について、選択肢を提示するのではなく指定してほしい。	1名
Moodleコースにある論文について、テーマやキーワードを載せてほしい。	1名

表2 授業の検討事項と改善策

検討事項	改善策
選択肢の提示(テーマ・事前課題の論文)	選択肢を与えすぎると、受講生の自律的な学習が促進されない。授業者の趣旨を説明し、段階を踏んで選択肢の提示数や方法を工夫する。
動画視聴	著作権や個人情報に配慮し、閲覧可能な方法を検討する。
実践的な内容と理論的な内容のバランス	バランスに配慮しながら、具体例を添え実践につながるように理論的な内容を取り扱う。
論文講読	授業の中で、論文の読み方や研究方法のような内容に触れた方が良い。

受講生に対しては、口頭でコメントへの対応と改善策を伝えた。受講生からは、「最初は何を知りたいのかも分からなかったが、後半になってくると知りたいことがはっきりしてくる」「慣れるまでは、ある程度枠を作って情報を与えてほしい」といった意見が挙げられた。

③ 取組を通して

今回のコンサルテーションを通して、授業構成や課題の出し方について改善を図ることができた。また、受講生が、学んだ内容が役に立つと感じることで、学習に対する意欲や主体性が増すということも体感できた。来年度以降、段階を踏んで学生の自律的な学びを促すこと、なぜ学ぶ必要があるのかを具体的に示すことを心掛けていきたい。